

フィリピン アジアのバナナ市場で強力な足場を維持

[FreshPlaza](#) 2024年9月12日

国連食糧農業機関(FAO)によると、フィリピン産キャベンディッシュバナナは、アジア市場で引き続き最大の選択肢となっている。FAOの「バナナ市場レビュー2023」は、フィリピンがアジアのキャベンディッシュバナナ需要の約60%を供給していることを強調している。グアテマラに抜かれて世界第3位の輸出国に転落したとは言え、フィリピンは国際的なバナナ市場で強い存在感を維持している。

価格が手頃なバナナは、世界中で安定した需要がある。FAOによると、プランテインを除く世界のバナナ輸出は、2023年に0.3%の微増で1,930万トンとなった。これは、2022年に見られた6%の減少からの回復を示している。モルドールインテリジェンス社の市場分析は、世界のバナナ産業は2022年から2027年までの期間に年平均(複利)4.5%で成長すると予想している。

しかし、フィリピンのバナナ産業は、輸出機会を活用する能力を妨げる可能性のある国内生産の課題に直面している。FAOの報告書は、フィリピンを含む主要生産国からの輸出供給の制約が成長を制限していると指摘している。フザリウム菌熱帯株4(TR4)などの問題が生産に大きな影響を与えており、フィリピンでは最大1万8千ヘクタールのキャベンディッシュバナナ農場が影響を受けている。

新たな市場を開拓しようとする政府の努力と、従来とは異なるバイヤーからの関心は前向きな兆候である。しかし、FAOの調査結果は、生産の非効率性と高いコストに対処するための政策介入の必要性を強調している。ドゥテルテ前大統領の政権下で策定されたフィリピン農業省のバナナ産業ロードマップは、これらの課題に取り組むことを目的としており、特に小規模生産者を支援するため、病害虫防除と生産費の削減に焦点を当てている。

出典: [BusinessMirror](#)